

平成 21 年度共同利用実施報告書(研究実績報告書)

1. 共同利用種目 (該当種目にチェック)

- 特定共同研究(A) 特定共同研究(B) 特定共同研究(C) 一般共同研究
 地震・火山噴火予知研究 施設・実験装置・観測機器等の利用
 データ・資料等の利用 研究集会

2. 課題番号または共同利用コード 2009 - G - 20

3. プロジェクト名、研究課題、集会名、または利用施設・装置・機器・データ等の名称

和文: より高度な火山噴火予知のための噴火シナリオ試作英文: (Working scenarios for more sophisticated prediction system of volcanic eruptions)4. 研究代表者所属・氏名 千葉大学大学院理学研究科・津久井 雅志(地震研究所担当教員名) 中田 節也

5. 利用者・参加者の詳細 (研究代表者を含む。必要に応じ行を追加すること)

氏名	所属・職名	利用・参加内容または 施設,装置,機器,データ	利用・参加期間	日 数	旅費 支給
津久井 雅志	千葉大学大学院理学研究科准教授		平成 21 年 4 月 1 日 ~平成 22 年 3 月 31 日		有

6. 研究内容 (コンマ区切りで3つ以上のキーワードおよび400字程度の成果概要を記入)

キーワード: 噴火履歴 噴火シナリオ 伊豆大島 青ヶ島

地震及び火山噴火予知のための観測研究計画の推進について(建議)の実施内容 1,(2-2)の「火山噴火予測システム」に基づき、より高度な火山噴火予知を目指して、噴火規模、様式、推移の予測を行うために、噴火シナリオを作成する。対象は次期噴火が近いとされる伊豆大島、および青ヶ島とする。

伊豆大島火山においては、安永噴火(1777年~1792年ころ)の降灰期(1783年~1792年ころ)に降下した火山灰の19降下単位から花粉を抽出し、種の同定を試みた。その結果、花粉の種類から降下単位それぞれの降下時季が異なり、文書記録との対応から複数年(およそ10年)にわたることがわかった。ただし、年単位の精度にまではいたらなかった。

青ヶ島火山では、天明噴火の文書記録、『青ヶ島諸覚』『青ヶ島山焼御注進書并渡海之役人其外乗組より差出候書付控』『伊豆国附八丈枝島青ヶ島山焼=付八丈島江惣人数引取候=付御救伺書』等を収集し、現在翻刻を進め、80ページ程度の史料集を作成中で、噴火履歴の高精度化をはかっている。

7. 研究実績報告 (公表された成果のリスト*¹または2000~3000字の報告書)(*¹論文タイトル、雑誌・学会・セミナー等の名称、謝辞への記載の有無、ポイント数、電子ファイル添付のこと)